

## 4. 開葯<sup>かいやく</sup>と人工受粉

蕾が膨らみ、畑が桃色になりはじめた頃に、膨らんだ桃色の蕾・花をとる摘花作業を行います。

人工授粉に必要な花粉を確保するため、摘花した蕾と花から花粉を取る作業を開葯といいます。

開葯品種(花粉・花量の多い品種)は、あかつき、白鳳(千曲)、黄金桃、白根白桃、なつっこ、フレーバートップ、ファンタジア、川中島白鳳、サマークリスタル、秀峰等です。メルグラントも使用できます。

- ・10a 当り必要花粉量は、花蕾で1kg位(収穫カゴ一個位)です。
- ・採花中の保管は日陰などに置き涼しい状態にしておきます。
- ・ビニール袋へ入れると蒸れるのでよくないです。
- ・段ボール・ネット・紙袋・収穫かごなどを利用します。

### (1) 開葯場所

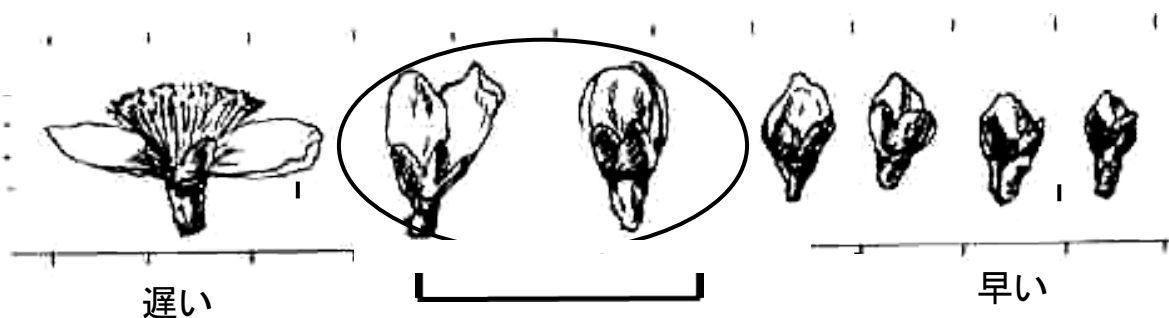
J Aの各流通センター・共選所にて実施します((詳しくは栽培アシスト情報「果樹総合情報 3月号-後半」を参照)。

### (2) 開葯方法

- ・摘花で集めた蕾と花を採葯器で細断します。
- ・花びらや花粉、ゴミが混ざったものをふるいにかけて、選別し葯を取り出します。
- ・選別した葯をトレーに乗せ、開葯器に入れ1日ほど乾燥させて葯を開かせ花粉を採取します。
- ・取り出した花粉は、乾燥剤と一緒に保管します。

開花の遅い川中島白桃に受粉する場合で、期間が長くなるようなら冷蔵庫で保存してください。

花の採取適期 ※開花直前(風船)～開花直後(未開葯)を採取。



花粉の発芽率は高いが、開葯しており、花粉の採取量が減少する。

この時期のものは、発芽率が高い。このような風船状を採取する。(開花直前～開花始め期)

この時期のものは発芽率が低い。